

JC PRESS 年末号

●発行所/ JCI 一般社団法人 京丹後青年会議所 ●編集/総務広報委員会

一般社団法人 京丹後青年会議所
2014年度スローガン



徹心楽動

夢と希望があふれる京丹後の創造



一般社団法人 京丹後青年会議所
2014年度理事長 由利彰基

「2014年を振り返って」

2014年度一般社団法人京丹後青年会議所は、「徹心楽動」夢と希望があふれる京丹後の創造」のスローガンのもと、「まちづくり」「青少年健全育成」「会員の資質向上」の3本柱を中心に事業を展開して参りました。すべての柱における根幹として、地域を取り巻く環境を十分に調査・研究し、市民のニーズや将来のまちづくりのために本質を見極め「まちづくり」では、京丹後市民の皆様の協力をいただき「HAMAMA-1グランプリ」浜辺で食べる旨いグルメ日本一決定戦」を開催しました。お陰様で延べ1200名近い市内外の皆様にご来場いただき京丹後の魅力を存分に感じていただくことができ、ご協力いただきました行政・関係諸団体の皆様本当に有難うございました。「青少年健全育成」では、未来を担う子ども達に郷土愛を育む継続事業「小学生ウルトラクイズin京丹後」を開催しました。事業当日の子ども達は、真剣な眼差しで京丹後の文化や歴史に耳を傾け、他校や地域の大人と触れ合うなか満面の笑みを見せる姿がとても印象に残る事業でした。また、これらの運動を行う上で私たち「会員の資質向上」は欠かせないものであり、日々の委員会活動や研修事業で、共助の精神を忘れず、常に切磋琢磨しい個人の力に磨きをかけることができ、青年経済人としても大きく成長できた一年であったと感じます。

結びに、地域に根差した活動してきたこの青年会議所を今後も必要とされる団体としてあり続けるためにメンバー一同率先して行動を興し続けていく所存です。どうぞ来年も本年度と変わらぬご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

JC PRESS 年末号 チャレンジ つねよし百貨店

●地域のつながり〜京丹後市大宮町

(一社)京丹後青年会議所では今一度自分たちの身近なコミュニティとのつながりを持つことの重要性を伝えていく必要があると考えています。総務広報委員会では、京丹後の幅広い年齢層の方々につながるテーマにし、つながることの大切さを感じていただける活動をされている地域の様々な方に、その活動の様子や思いを伺って参ります。そこで今回は第2弾として大宮町常吉にある「チャレンジつねよし百貨店」の東田一馬氏にお話を伺いました。



▲東田一馬氏

活動のきっかけ

大阪出身である東田氏は、東京でIT関連の仕事をしていましたが、リーマンショックの煽りを受けて会社を閉鎖した後、運命を変えた一通のメールに出会ったそうです。それは、「田舎で働き隊」という農林水産省が展開する農山村地域が有する特産物や自然環境を用い、地域の活性化を推進する為の参加者応募の案内だったそうです。いつかは地元である関西に帰りたいと考えていた東田氏にとってまた新たなチャンスでした。しかし、希望地域を京都府にしたとはいえ、まさかこんなにも遠くで田舎だとは思ってもいなかったと笑いながら語られています。

常吉百貨店の再出発

常吉村営百貨店は生活の基盤であり、集落内の唯一の商店であった丹後大宮農協常吉支所の廃止に伴い、買物弱者の生活が立ち行かなくなる不安から、村づくり委員会の

秋から冬のいわゆるクローズシーズンの半年間が研修先での活動期間でしたが、活動の中で春や夏の話聞き、常吉の魅力や面白さに惹かれ、せめて1年ここで過ごした



メンバが中心となり設立されたものです。大木氏の体調上の問題などから村営百貨店は一度、閉店することになりました。そんな最中、東田氏は他の地域で地域活性化に従事していることに疑問を抱き、百貨店や常吉地区に尽力する決意を固め、チャレンジつねよし百貨店実行委員会を立ち上げることとなりました。大木さんが引退していきりリーダーだったから、そのやり方では自分らうまうまいかなというところから、だかだか感じ、来る人拒まされたと感じて、朝は近所の「おっちゃん」が集まる空間に徐々に変わって来たことになりました。運営に関してはやはり、お店というところで女性を意欲していることから東田氏の奥様が百貨店の代表を務めているそうです。地域の女性陣が集まって、「おとめ塾」を結成し、楽しいことをワイワイいしようとして活動していられます。その活動から、百貨店のグリーンカーテンが生まれたり、お正月にはおせちづくりをしていくそうです。様々な人の関わりで、空気が温まっていると東田氏は感じています。子どもたちが走り回っていてもお金にはならないけれど、誰もいない空気の冷えた暗い感じよりは、人の温かみのある空気を作り出して

地域のつながり

常吉地区150世帯は上常吉と下常吉とで構成されており、現在も百貨店を中心として交流が生まれています。「チャレンジつねよし百貨店」の存在は、どこの地域にでも必ずあったお店であり、そこにあることで自然と地域のキーステーションになっていくように感じました。町おこし、まち創り、地域活性化の新たな力を入れるだけでなく、その場所を維持することで地域の心のよりどころになります。また、昔ながら当たり前であった世代を超えたつながりが自然と形成できているのではないのでしょうか。形を新たに作るのではなくその地域それぞれの生活の中から自然と形が成されていくことが最もその地域に合った形であるように感じます。そこにお店があることが、大きな存在意義を感じることもできました。今、あるものを無くさない事の重要性を今一度見つめ直し行くことが必要だと考えました。

JC PRESS 年末号 巷談

こんな言葉をよく口にしませんか？「運動不足で身体が重たい」「最近飲み過ぎで下腹が・・・」「間食がやめられずつい手が口に・・・」と言いついながら「少しぐらいなら後で何とかなる」などと自分に言い聞かせながらついついカロリーオーバー、身体に過剰の脂肪が蓄積され肥満となり、成人病や不妊症、腰痛、膝痛を引き起こし、また逆にやせすぎて脂肪が少なく、体温調整、抵抗力の低下、内臓を正常な位置に保つことができず胃下垂になりやすく、女性には月経不順、無排卵、無月経を引き起こします。健康な体とは、程度の筋肉と体脂肪がバランスよく配分された「均整のとれた身体」です。近年BMI指数を耳にする場面が増えていきます。これは自身の肥満度を表す数値で、誰でも適用できる簡単な計算式であり健康を管理していく上でとても重要な数値となります。もし、体重や体脂肪量がオーバードライしている時は、「必要最低限の栄養を含んだ低カロリーな食事」と「適度な運動」「太りやすい生活行動の改善」です。運動を怠った減食のみは方法を行うと著しく筋肉や骨が減少し、やつれた身体で不健康になります。運動により筋肉や骨の量を増やしバランスの取れた体造りをするのには、楽しく体を動かすことが大切です。楽しみながら運動をして知らないうちに体重や体脂肪が減れば何も言うことなし！皆さんも生涯スポーツを探してみたいかがでしょうか。

